



富川ぜきの旧水門



【牛沢ぜき】（今の鶴沼ぜき頭首工水路）今からおよそ330年前ごろまで

若宮地区は、ちいさな堤のほかには 牛沢ぜき（会津坂下町寿ノ宮地内）かんがい施設のない、水が不足がちでくらしにくいところでした。この水を引くことは、若宮地区の農民の長年のねがいでした。

そのような時、1624年（寛永元年）牛沢組郷頭佐原吉左衛門光重が開こんをこころざし、用水づくりを始めました。光重が病気になったあとは、むすこの光忠が引きつぎました。光忠は1656年（明暦2年）に用水路づくりを決意し、代官所へ援助をねがいでました。ところが、この計画があまりにも大きいため援助はみとめられず、光忠は自分の財産を投げだして人夫350人をやとい、工事を始めました。

1658年（明暦4年）にようやく会津藩より人夫1万人をあたえられ、ついにこの年4月中旬に完成しました。この用水の通り道にあたる村の中には、この用水路づくりに反対する人もあり、その中には命をうばわれてしまった人が3人いました。このようにして、父光重がとりかかってから30年後にこの牛沢ぜきは完成したのです。

現在の水路は会津高田町の境野新田の鶴沼川より水を取り入れ、新鶴村、若宮地区の東がわから北をまわり、蛭川まで流れています。水